

平成 22 年度 事業報告

1. 一般事業

(1) 同窓会活動

①同窓会支援

ア) 周年同窓会の開催

成蹊会として実施を働きかけ支援している 10 年毎の周年同窓会は高校、大学ともすべて開催され、卒業 10 年毎の周年同窓会の実施は定着した。ただし、平成 23 年 3 月 12 日(土)開催予定であった大学卒業 10 周年同窓会は東日本大震災の影響で当日の開催は中止とした。

大学卒業 10 周年同窓会 (H23 中止) 高校卒業 10 周年同窓会 (H22. 11. 6)

大学卒業 20 周年同窓会 (H22. 10. 16) 高校卒業 20 周年同窓会 (H22. 6. 26)

大学卒業 30 周年同窓会 (H22. 6. 26) 高校卒業 30 周年同窓会 (H22. 10. 10)

大学卒業 40 周年同窓会 (H22. 10. 23) 高校卒業 40 周年同窓会 (H22. 12. 11)

大学卒業 50 周年同窓会 (H22. 9. 26) 高校卒業 50 周年同窓会 (H22. 11. 27)

また、このほかに次の同窓会が開催され、これを支援した。

旧制高等学校卒業 60 周年同窓会 (H22. 11. 25)

高校第 55 回卒四半世紀の会 (H23. 1. 9)

これらの同窓会全体で約 1,400 名の卒業生が参加した。

(注) 大学卒業 10 周年同窓会はホームカミングとして、成蹊学園が主催し同窓生を招待している。開催に向けては、同窓生と成蹊会で企画・運営を行っている。

イ) 地域同窓会の支援

本年度は、32 ヶ所の地域成蹊会で総会等が開催され、そのうち 28 ヶ所に会長をはじめ役員が参加。成蹊会・成蹊学園の現況について報告し、相互のコミュニケーションを深めた。

②催事

ア) 本年度の第 50 回成蹊会謝恩顕彰は、通常総会第 3 部として実施した。対象の方は 8 名で、うち 2 名の方の出席を賜った。

(注) 成蹊会謝恩顕彰は、成蹊学園の教職員として 30 年以上勤務、定年退職し、今年満 70 歳の特別会員が対象

イ) 学園創業者中村春二先生を偲ぶ枯林忌は成蹊学園と成蹊会の共催で、2 月 19 日(毎年命日である 2 月 21 日の直前の土曜日に実施)に春二先生のご遺族と 90 名余りの同窓生・教職員が参加して、巣鴨の染井霊園で墓参した後、三菱養和会会議室で追悼会を行った。〈来年は 2 月 18 日(土) に実施予定〉

(2) 組織強化

①公益法人制度改革への取り組み

平成 22 年 9 月の理事会で、総務企画委員会からの答申に基づき、「成蹊会は一般社団法人へ移行する」との決議を行った。また、「一般社団法人への移行」に向けての今後の検討は特別委員会として「新法人格移行準備委員会」を設置して行うこととし、平成 22 年 9 月に 第 1 回委員会を開催し、準備作業を進めている。

その検討内容と一般社団法人に移行することに伴う、現状との相違点等については、

第3号議案で詳細を説明している。

②学校・学部同窓会

各学校・学部同窓会は、各年次の同窓会委員が集まる同窓会委員会を中心に、年1～3回開催された。大学4学部同窓会は、成蹊桜祭にそれぞれ模擬店を出店し交流の場として活用している。

また、新しい取り組みとして経済学部同窓会が「企業見学バスツアー」「経済学部教授による講演会」を企画し参加者を募って実施した。

なお、6月3日に各同窓会の会長・幹事長連絡会を開催し、活動内容の情報交換を行い活性化に向けての取り組みを協議した。

③広報活動

会員に成蹊会・成蹊学園の現況を伝えるため、成蹊会誌111号、112号を発刊するとともに、成蹊会ホームページからの情報発信・行事周知に努めた。

また、本年も引き続き、卒業生が成蹊学園の現況理解を進めるために広報誌「成蹊学園」の発刊時に同窓生住所を学園に提供し送付に協力した。

④成蹊倶楽部の増床リニューアル

昨年9月の理事会で、成蹊クラブ委員会での検討・提案を審議し、10月の評議員会での決議に基づき、予備費より900万円(改装費・什器備品682万円、家賃等運営費増218万円)の追加支出を行って成蹊倶楽部の増床リニューアルを実施し、平成23年2月に営業を開始した。

今回の増床は家主である㈱ニュートーキョーのご好意と、成蹊倶楽部の今後のあり方を考えると“ある程度の規模での運営とその検証が必要である”とする成蹊クラブ委員会の熱意から、実施することにしたものである。営業期間が4年余りと限られているが、その後の成蹊倶楽部のあり方を模索・検討するための場として会員の利用を促進していく。

また、成蹊倶楽部はその規模及び営業形態から、収益事業として利益を求める運営ではなく、成蹊会の会員サービス事業との位置付けで運営することとした。

⑤会費納入促進

例年通り、総会案内に会費納入用紙を同封して、会費納入をお願いした。

その後、7月に各同窓会の年次委員および周年同窓会出席者で未納者に、年末には、例年通り昨年納入者で本年度まだ未納の方、及び平成16年度以降の会費未納者に依頼状を送付するなど督促に努めた結果、会費納入者数は9,629名と平成21年度より133人増加し、3年連続で納入者を増やすことができた。

なお、平成22年度分会員名簿送付時に会費の「銀行預金口座振替」申込用紙を同封し、呼びかけたところ418名の方から申し込みを受け総数も2,006名となり、DCカード納入者とあわせ2,859名が固定納入者となった。

⑥在校生からの10年分会費前納制度変更への対応

成蹊学園より、現在代理徴収している在学中に入会金と10年分会費を前納させることに関し、これまでは学費と同一の払込用紙で対応していたが、収納者が異なるものを一括して納入させることは、コンプライアンス上、問題があるとの見解が示され、学園より、学費と分割しての徴収及び徴収時期について見解が示され、現在今後の徴収方法・対応について協議を継続している。

なお、このことにより入学した年の後期授業料納入時に成蹊会費を学費と一緒に徴収する

ことは、平成 22 年度入学者については見送られた。

⑦東日本大震災への義援金

3 月 1 1 日に起きた東日本大震災の被災地の皆さまの復興に少しでも役立つよう、3 月 2 9 日（火）の理事会で義援金 100 万円を拠出することを決め、4 月 5 日に日本赤十字社を通じて寄付した。

(3) 成蹊学園との連携

①成蹊学園理事会・評議員会への出席

成蹊学園の理事会・評議員会に出席し、成蹊会推薦の役員が学園運営の活性化を中心に、学園と積極的に意見交換・意見提起を行った。

②成蹊学園創立 100 周年事業への協力

成蹊学園が計画している創立 100 周年事業は 2012 年 5 月 12 日（土）東京国際フォーラムにおいて実施される記念式典をメインに行事が計画されている。学園における検討会に常務理事が参加することにより、情報収集と協力関係の構築に努めた。

③学園行事への参加

ア)各学校の卒業式、入学式には会長をはじめ成蹊会推薦の理事が参列し、大学の学位授与式と入学式においては、会長が祝辞を述べるとともに、成蹊会の活動について紹介した。

イ)成蹊学園が年 4 回行う地域清掃活動には事務局中心で参加・協力した。（3 回実施）

ウ)成蹊音楽祭(12 月 26 日)、建学の日行事(3 月 23 日)には、同窓生に呼びかけ、多くの参加を得て、行事を盛り上げるべく努めた。なお、建学の日行事は東日本大震災の影響を考慮し中止となった。

エ)成蹊学園が行う地域懇談会（名古屋、仙台）の開催にあたっては、成蹊学園の要請に応じて、役員のパシ遣および当該地域成蹊会と連携して同窓生の参加を行うなど開催に協力した。

(4) 会議等

①第 55 回通常総会

平成 22 年 6 月 19 日（土）に成蹊学園本館大講堂で、1,114 名が出席（当日出席者 125 名、委任状提出者 1,016 名）して行われた。

平成 21 年度事業報告・決算報告、平成 22 年度事業計画・収支予算案及び成蹊会評議員選任の件が付議され、いずれも原案どおり承認された。

また、総会終了後に大学卒業生として初めて学長に就任された亀嶋庸一氏の講演が行われた。

②評議員会・理事会

評議員会は 2 回、理事会は 5 回、開催された。

③特別委員会

各特別委員会の開催回数は次の通りであった。

総務企画委員会	1 2 回	スポーツ振興委員会	1 0 回
財務委員会	2 回	広報委員会	6 回
育英奨学委員会	7 回	成蹊桜祭委員会	8 回

学術・教育助成委員会	2回	推薦委員会	2回
成蹊クラブ委員会	15回	新法人格移行準備委員会	9回

2. 公益事業（成蹊学園への後援）

(1) 育英奨学事業

本年度は新規の貸与者枠を5名増加し35名に奨学金を貸与した。貸与総額は2,016万円である。内訳は、中学生3名、高校生3名、大学生28名、大学院生1名である。返済総額は1,617万円であり、本年度は399万円貸与額が増加した。

なお、本年度末の残高は次のとおりである。

H22年度末育英奨学貸与金残高 105,936千円

H22年度末基金残高 224,516千円

(2) 学術・教育助成事業

本年度は学術・教育研究助成金として大学2件、中・高校4件、小学校4件に250万円助成した。具体的内容は下表のとおり。

学術・教育振興助成金として、小学校の教育誌「すもも」の発行費用の一部として40万円を助成した。

H22年度助成額 2,900千円

H22年度末基金残高 51,483千円

職名	氏名	専攻	研究種別	研究課題	助成額 (万円)
経済学部 教授	井出多加子	経済経営	個人研究	不動産価格の変動とマクロ経済	25
法務研究科 教授	武田真一郎	行政法学	個人研究	取消訴訟の訴えの利益に関する研究	25
中学・高校 教諭	濱村愛	国語	個人研究	国語表現におけるコンピューターの活用	20
中学・高校 教諭	川村一徳	化学	個人研究	新しい化学学習教材の構築	20
中学・高校 教諭	佐藤尚衛	生物	個人研究	ニホンヤミビル(<i>Haemadipsa zeylanica japonica</i>)の生態特性及び分布域調査	20
中学・高校 教諭	小山雄三	保健体育	個人研究	教職員における健康関連Quality of Life(QoL)と身体活動量の関係	20
中学・高校 教諭	四方雅之	英語	個人研究	「授業分析」の方法の開発	20
中学・高校 教諭	齋藤敬子	英語	個人研究	生徒が身につけるべき英語の達成地点の検討と習得方法ならびにカリキュラムの検証	20
小学校 教諭	小野正俊	小学全科	個人研究	社会科6年歴史的内容領域における新カリキュラムの作成とより分かりやすい授業のあり方を探る	20
小学校 教諭	木下ひさし	小学全科	個人研究	国語科単元学習の可能性～新学習指導要領の実施を視野に入れて	20
小学校 教諭	中川恵美	小学全科	個人研究	豊かな表現力をめざして～見る人・聞く人を引きつけるパフォーマンスから～	20
小学校 教諭	内川健	小学全科	個人研究	子どもの景観概念と社会認識の発達に関する研究	20

(3) 国際交流事業

本年度もカウラ高校およびセントポールズ校よりの留学生生活費等ホストファミリー負担額への一部支援として 90 万円を助成した。

また、本年はカウラ高校との交流 40 周年にあたり、カウラと東京で行われた記念式典に会長が出席した。

H22 年度助成額 900 千円

H22 年度末基金残高 35,893 千円

(4) スポーツ振興事業

本年度は、スポーツ振興委員会での検討に基づき、理事会の決議を受け、予備費からの支出として、スポーツ振興の事業費を総額 280 万円増額した。

具体的には、大学体育会は 25 万円増額し所属 15 団体に 100 万円を、中・高校には 30 万円増額し 60 万円、小学校には 25 万円増額し 40 万円を助成した。

大学体育会所属団体に対し、現役とOBが連携して継続した強化・育成を図れるように特別強化指定団体制度を導入し、本年度はラグビーフットボール部、蹴球部、硬式庭球部を指定し、総額 200 万円を助成した。

スポーツ振興奨励金として、例年どおり学内陸上競技大会と学内レガッタに合計 15 万円助成した。また、全国大会レベルの試合に出場した優秀団体 6 団体、優秀個人 4 名に合計 41 万円の奨励金を贈呈した。

体育会総会での表彰用の盾等を例年通り寄贈した。

H22 年度助成額 4,635 千円

H22 年度末基金残高 29,888 千円

(5) 文化振興事業

本年度も文化振興助成金として、大学の櫻祭、中・高校の蹊祭及び文化会本部に各 15 万円、新聞会に 5 万円を助成した。

毎年 4 月の第一日曜日に実施している成蹊桜祭を本年度は平成 22 年 4 月 4 日に実施した。本年も成蹊学園から 300 万円の支援を受け、桜祭委員会の周到な準備と現役学生の協力により、およそ 6,000 名を超える同窓生、教職員、現役学生、地域の方々が満開の桜の下で様々なイベントを楽しんだ。

なお、平成 23 年 4 月 3 日に予定していた第 34 回成蹊桜祭は、東日本大震災の影響を考慮し、開催を中止した。＜平成 24 年は 4 月 1 日に実施予定＞

H22 年度助成額 5,608 千円（学園からの支援金 3,000 千円を含む）

H22 年度末基金残高 43,805 千円

3. 成蹊クラブ

平成 23 年 2 月に成蹊倶楽部の増床リニューアルを実施した。評議員会、理事会での予備費支出の承認に基づき、予算 682 万円で実施、679 万円で完成した。内装費 399 万円は固定資産に計上、既存設備の撤去費用が 79 万円、新規の備品等の費用が 201 万円であった。

成蹊倶楽部はリニューアル増床により、客席数が 8 テーブル・32 席での営業となり、いつでも気軽に利用でき、会員相互の親睦・交流の場となるよう運営していく。

なお、本年度の正味財産は△610 千円となった。

以 上